

希学園 第394回 小3公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第394回公開テスト 小3算数 解説動画(2025年3月9日実施)	https://vimeo.com/1063783221/829bf1b0bf

1	(1) 142	(2) 197	(3) 369	(4) 208
	(5) 654	(6) 294	(7) 6000 (秒)	(8) 21 (m)
	(9) 7	(10) 90 (円)	(11) 7 (才)	(12) 40 (こ)

2	(1) 14 cm	(2) 6 cm
---	-----------	----------

3	(1) 1620	(2) 478
---	----------	---------

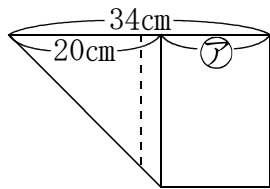
4	(1) 8	(2) 5
---	-------	-------

5	(1) 40 円	(2) 110 円
---	----------	-----------

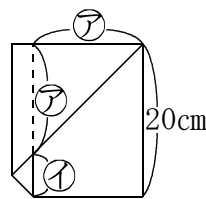
6	(1) 4	(2) 3
---	-------	-------

- 1 (5) $\square + 46 = 700$
 $\square = 700 - 46 = \underline{654}$
- (6) $450 - \square = 156$
 $\square = 450 - 156 = \underline{294}$
- (7) 1分 = 60秒
 $100分 = 60秒 \times 100 = \underline{6000}$ (秒)
- (8) $1000mm = 100cm = 1m$
 $2000cm = 20m$
 $\square m - 20m = 1m$
 $\square = 20 + 1 = \underline{21}$ (m)
- (9) \square を4倍した数から8をひくと、20になる。
 \square 線部は、 $20 + 8 = 28$
九九表で、 $7 \times 4 = 28$ なので、 $\square = \underline{7}$ 。
- (10) $15 + 15 + 20 + 20 + 20 = \underline{90}$ (円)
- (11) 兄の年れいは、弟の年れいの2倍。
かずや君が、兄より年上になったり、弟より年下になったりしないような年れいを考える。
弟が6才、兄が12才のとき、かずや君は、
 $19 - 6 - 12 = 1$ (才)で、おかしい。
弟が5才、兄が10才のとき、かずや君は、
 $19 - 5 - 10 = 4$ (才)で、おかしい。
弟が4才、兄が8才のとき、かずや君は、
 $19 - 4 - 8 = 7$ (才)
弟が3才、兄が6才のとき、かずや君は、
 $19 - 3 - 6 = 10$ (才)で、おかしい。
よって、かずや君は $\underline{7}$ 才。
- (12) 白い正方形だけを数えて、 $\underline{40}$ 個。
(別解)
正方形は、赤白合わせて、 $7 \times 9 = 63$ (個)ある。
よって白い正方形は、 $63 - 23 = \underline{40}$ (個)ある。

- 2 (1) 重なる辺の長さを考える。
右の図から、⑦は、
 $34 - 20 = \underline{14}$ (cm)



- (2) ①の上には、1回目のおった辺がある。⑦と①を合わせると、長方形のたての長さと同じ20cm。よって①は、
 $20 - 14 = \underline{6}$ (cm)

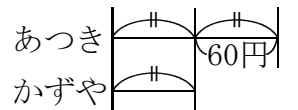


- 3 (1) $476 + 815 + 329 = \underline{1620}$

- (2) $912 + ABC + DEF = 1746$
A, B, C, D, E, Fとして残る数は、3, 4, 5, 6, 7, 8。
 $1746 - 912 = 834 \dots ABC + DEF$
一の位から、 $C + F = 4$ か 14
→ C, Fは6, 8
A, B, D, Eとして残る数は、3, 4, 5, 7。
一の位でくり上がりがあるので、十の位から、
 $B + E + 1 = 3$ か 13 → B, Eは5, 7
A, Dとして残る数は、3, 4。
ABCとして、すべて大きい方の数を選ぶと、それぞれ4, 7, 8なので、 $\underline{478}$ 。
DEFは356となり、
 $912 + 478 + 356 = 1746$ のとき。

- 4 (1) 図から、7と向かいあっている目は、9, 5, 1, 4ではない。よって、7と向かいあっている目は、7, 9, 5, 1, 4ではない $\underline{8}$ 。
- (2) 7が出ているとき、手前側の2つの面は9と5、または1と4。この2つの図で、7の目の向きが同じなので、7の目を上に向けたまま、半回転させたものだとわかる。よって、1と向かいあっている目は9で、4と向かいあっている目は $\underline{5}$ 。

- 5 (1) あつき君からかずや君に10円玉を2まい、つまり20円わたすと、2人の持っている金がかくが同じになる。よって2人の持っている金がかくは、
 $20 + 20 = \underline{40}$ (円)のちがいがある。
- (2) かずや君からあつき君に5円玉を2まい、つまり10円わたすと、2人の持っている金がかくは、
 $40 + 10 + 10 = 60$ (円)のちがいになる。
このとき、あつき君はかずや君の2倍の金がかくに
なるので、右の図から、
あつき君は、 $60 + 60 = 120$ (円)になる。
ただし、10円もらって120円なので、あつき君は、
 $120 - 10 = \underline{110}$ (円)持っている。



- 6 (1) $1 + 2 + 3 + 4 + 5 + 6 + 7 + 8 + 9 = 45$
 $6 + 8 + 11 + 16 = 41$
 $45 - 41 = 4$ なので、 $\underline{4}$ 。

- (2) たして16になる2まいの組は、 $\underline{7}$, $\underline{9}$ 。
 $\underline{4}$ がないので、たして6になる2まいの組は、 $\underline{1}$, $\underline{5}$ 。
残る $\underline{2}$, $\underline{3}$, $\underline{6}$, $\underline{8}$ から、たして11になる2まいの組は、 $\underline{3}$, $\underline{8}$ なので、小さい方のカードは $\underline{3}$ 。
(配点) $\underline{1}$; 各5点×12 他; 各4点×10